

生活記録の社会学  
—方法としての生活史研究案内—

ケン・プラマー著 原田勝弘・川合陸男・下田平裕身  
監訳  
東京 光生館発行 1991. 6  
251 p 21cm ¥2,472

本書は、英国の社会学者ケン・プラマー博士により、現代社会調査研究叢書のうちの一冊として1983年に刊行された*Documents of Life*の邦訳である。

この叢書は「重要ないくつかの方法論的課題をとり上げ、それらの内容についての簡明な入門書を提供しようとする」意図で企画されたもので、そのうちの本書は「人々の社会的経験を当事者の観点からじかに説明することができる生活史やその他の個人的記録を、社会科学的調査でどのように活用していくか」について論じたライブドキュメント（生活記録）研究の本格的な案内書である。その内容は、大きく①従来、欧米の社会科学、とくに社会学において評価のされてこなかったこの分野の研究史とその復権の提唱、②生活記録の活用、生活史調査の実践の方法、という二つの面から構成されている。

本書が執筆・刊行された1980年代初頭以降、「世界中の社会学研究者の間で、こうした方法に関心を寄せる動きが空前の高まりをみせている」(その動向が日本においても同様であることは「訳者あとがき」に紹介されている)が、そこで対象とされる生活記録として著者は次のようなものを紹介している(2章「様々な生活記録について」)。

(1)生活史 (2)日記 (3)手紙 (4)「民衆の声」  
とゲリラ的ジャーナリズム (5)口述史 (6)  
「事実の文学」 (7)写真 (8)映画 (9)雑録  
人々の生活や社会を調べるためには、個人  
の様々な生活記録（それは文書資料よりも、  
面接調査等によって得た記録、文字以外の記  
録のウェイトが高い）が必要であることがわ  
かる。そして、その生活や社会を史料という  
かたちで後世に伝えていく文書館は、これら  
生活記録の収集・保存にいかに応じていくべ  
きか、を考えさせられる。

公的な文書の保存だけでは、社会や生活を  
後世に伝えていくことはできないだろう。

太田 富康・埼玉県立文書館